

いわき市

風力発電の人材育成

保守点検で 研修拠点を整備 新年度にも

いわき市は再生可能エネルギー産業に特化したまちを目指し、新年度にも風力発電設備（風車）の保守点検を担う人材育成に向けた研修拠点の整備に乗り出す。併せて、風車の部品に

関して市内企業による研究開発ネットワークを設立し、高度な技術が求められる風車の部品製造への参入を促す。【一面に関連記事】

市は、人材育成と技術力強化を支援することで「ものづくり産業都市」のブランドイメージを確立したいと考えた。メンテナンス産業を足掛かりに、将来的には

風車の製造拠点としての未来図を描く。風力発電を巡っては、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構

想により、県内では阿武隈山地や沿岸部に約300基が新設される予定で、全国的にも導入の動きが加速している。風力発電の風車については、昨年4月から3年ごとの定期的な安全管理

検査が義務化された一方で、国内のメンテナンス人材は不足。市によると、技術者1人が日々の不具合への対応などを含めメンテナンスできるのは年間3本程度

とされ、県内に新設される風車の保守点検に対応するためには、新たに100人ほどが必要になるとい



風力タービン専門工場を稼働する会川鉄工を中心に、市内では「メイド・イン・いわき」の風車製造を目指す動きが活発化している

致を進めながら、研修拠点での人材育成を通して風力発電関連産業の集積を図る。研修拠点では実際の風車を使用し、構造や高所での部品交換、羽根の補修方法などを学ぶ環境を整える。

地元で風車製造 取り組み活発化

いわき市内では、四倉中核工業団地などで風車のタワー製造を手掛ける会川鉄工を中心に「メイド・イン・いわき」の風車製造を目指す動きが活発化しつつある。現在は海外製の部品が多いが、市は将来的に市内企業による部品供給体制を

整えたい考えで、部品の耐久テストなどを行う研究拠点の整備も視野に入れる。再生可能エネルギー産業の振興に向け、市ではこれまでバッテリー産業や水素関連産業の集積を目指す取り組みを進めてきた。市は風力発電関連産業を発展させ、東洋システムなどと連携して市内にバッテリー産業を集積する「いわきバッテリーバレー構想」の実現や、水素発電の導入にも広げたい考えだ。今後は風力発電の電力をバッテリーに蓄えたり、水素を製造したりするなど、市内産業の新たな可能性を模索する動きが進みそうだ。